

# ほっと♥ゆうばり

第13号  
2008年  
10月1号

編集・発行：ゆうばり再生市民会議 広報部

9月12日(金)、第13回目の会議が市民研修センターで開かれました。運営委員24名、事務局5名、市内外の見学参加者10名に、関西テレビの取材も。話し合いの概要をご紹介します。

※**藤倉市長**…再生会議も1年が経ち、皆さん疲れていませんか。自分の健康管理に配慮しながら、作業のスピードを落とし、時間をかけることも必要です。ゆっくりと考えるもの、急いでやるものを区別して考えましょう。

※**三つの分科会(福祉・環境・観光)に分かれ、一時間の話し合いに入る。**

### ◆福祉分科会

- ①“子ども部会”“まちづくり部会”の開催について  
既存の3分科会と別日程とし、子育てしている方々が積極的に参加しやすくしよう。
- ②認知症勉強会について  
先般、助成金を頂いたコブさっぼろと認知症勉強会を企画したい。
- ③室蘭よつば会が来夕し、刺し子ふきん80枚の贈呈(2度目)があり、意見交換を行なった。今後も交流を続けたい。
- ④有識者(大学等)との意見交換について——ぜひ実施して頂きたい。

### ◆環境分科会

- ①“まちづくり部会”の開催について  
“まちづくり部会”は再生会議そのものであり、これまでの反省を踏まえて考えるべき。分科会の中では定義だけの話し合いで進歩がない状況だ。再生会議の方向を考えよう。市民のものになっているか、市外からどう見えているのか考えてみたい。  
そこで、環境分科会と市の地域再生グループが中心となり、自治体政策研究所等と運営委員有志との意見交換会を企画したい。  
再生会議の運営体制、組織を明確にして、全体会議に向けた中間総括してはどうか。
- ②“子ども部会”の開催について  
活動は必要だと思うが、範囲が広がると各自に無理が生じるので、まずは福祉分科会の中で実施してみてもいいでしょう。

### 観光分科会から

夕張の「紅葉の名所を写真に撮ろう」 ← 「夕張いいところ発見うおーきんぐ」

- デジカメで撮影する人(撮影データの提供)
- カメラ無いけど一緒に歩く人
- 参加しないが写真の提供できる人
- 期間=10月10日(金)~20日(月)
- 応募は10日まで ▶どちらも52-3141へ

- 紅葉を眺めながら、市内の宝物を再発見しよう
- 10月19日(日)朝9時半 清水沢ダムに集合
- 散策コース=旧遠幌保育園~清水沢ダム(清栄町のズリ山登山も)
- 応募は17日まで(旧清水沢発電所、大夕張鉄道にいた方はぜひ)
- 市役所地域再生グループまで電話ください

募集!



今月の再生市民会議は10日、金曜日市民研修センターで6時半から  
問合せ 地域再生グループ 52-3141

### ◆観光分科会

- ①夕張再発見マップ <桜から始まる夕張> の作制について  
色々なジャンルの地図を組み入れ、夕張の地域資源の再発見を促すのが目的。関心のある人なら誰でもデータを作ることができる。「幸福の黄色いハンカチ基金」に申請中です。
- ②“子ども部会”の開催は、子育て中の人が入ってきやすい場を作りたい。
- ③“まちづくり部会”は再生会議が今まで取り組んできたことが“まちづくり”だと思う。資源の再発見でも“まちづくり”につながる。
- ④有識者との意見交換会について  
実施し、参加することで、自分達が行き届くべきことを明確にしよう。

### …20時10分頃から全員が集まり、車座で意見交換 21時まで…

- 自治体政策研究所との意見交換会は、環境分科会が軸となりプロデュースしたい。
- “まちづくり部会”の設置については10月10日(金)の運営委員会の中で、各分科会を開催しないで全体で話し合うことにしてはどうでしょうか。
- 部会でまとめようといっても、なかなかまとまらない。
- まとめる必要もないと思う。できることをやっつけていこう。このままでもまとまると思う。目標を置かないという目標もあるのでは。
- 組織として発展させる必要があるのか、ないのか。そこからの検討が必要では。
- 再生会議で取り組んできたことを市民に報告する義務があると思う。
- 新しい部会を立ち上げると無理が生じる。時間をとって話し合いましょう。
- 環境分科会では環境にかかわらず、まちづくりにも取り組んでみたい。どうしたら再生になるのか、曲がり角に来ているみたい。
- 分科会で決めたことを全体会に出しても決まらない。決め方そのものを変えたほうが良いと思うが。
- これまでのやり方が良いのか、悪いのか話し合うことが必要では。
- 会議のあり方を含め全体会議だけの時間をとりませんか。

……いろんな意見が出ましたが夜9時にもなるとやっぱり疲れぎみに。  
次の再生会議(今月10日(金))は分科会に分かれず、参加者全員で“まちづくり部会”や“子ども部会”の開催の方法を含め、今後の進め方について全体で話し合おう—  
ということを終了、散会しました。

### 行事のお知らせ

- 10月3日(金) 3:00 ゆうばり市民会館
- ◆中国青少年芸術交流団「夕張元気舞台」公演
- 10月4日(土) 4:00 ゆうばり市民会館
- ◆夕張市民吹奏楽団演奏会
- 10月20日(月)~25日(土) 研修センター
- ◆夕張市民文化祭

「幸福の黄色いハンカチ基金」申請の  
フレスターションを見学しました

とき 9月16日(火) 午後6時

20年度下期の助成事業フレスターションに、16の団体が申請参加。それぞれの事業についてそれぞれの仕方ではアピールしてました。発表時間3分間は短い？長い？審査員の質問にうまく答えられたか？ 切実で熱いものも16のフレスターの様子をレポート。

●夕張市老人クラブ連合会 夕張ふれあい交流事業：七十代、八十代のおばあちゃんおじいちゃん、こどもたちとの世代間交流を深め続ける。

●中国青少年芸術交流団 中国青少年芸術交流団「夕張元気舞台」：子ども向け文化の応援の財源がない中、受け入れをたく実行委員会を作る。

●ハッスル夕張 北方果樹園再生のための維持管理と  
公共施設等の環境整備事業：昨年から継続して丁末の果樹園の維持管理、市庁舎周辺の美化、千代田三叉路の美化等を行う。

●NPO法人ゆうばり観光協会 「ゆうばりあれこれマップ」(夕張観光マップ)増刷：今春一万四千部印刷したが大好評で残部が僅かに。三万部を増刷して、全道市町村窓口、ホテル等に配布、観光誘致につなげたい。

●ゆうばり再生市民会議 夕張再発見マップ(桜から始まる夕張)：市民自らが再発見観光・文化分科会 したわがマチの地域資源を地図にする。桜、紅葉、炭鉱史跡等分類、加除式にすることで自分だけの地図になる。

●NPO法人ゆうばりファンタ 地域シネマフォーラム：来年のゆうばり映画祭で行う事業。今年南部地区で開催し地元住民との交流が広がった。本会場の本町以外の地域上映を進めていきたい。

●ゆうばり再生市民会議 救急医療情報キット「命のバトン」推進事業：自分の医療情報をケースに入れて、救急事態発生時に効果発揮。希望者からスタートして全員に広げたい。

●夕張歌留多愛好会 子供かるた推進事業：前回の基金活用で南空知大会で一位、全空知、全道大会でも好成绩をあげることができた。参加する子どもたちの地域も広がり、高齢者との交流会も企画したい。

●夕張市美術館支展 夕張市美術館の芸術作品等保護支援事業：美術館は改装後二十年経過、冬期間は閉鎖するので屋根の雪がなご落ちない。ペンキを自分たちで塗りたい。

●夕張スキー連盟 幼児小学生スキー教室：昨年、今年とリフト代、講習料の負担が増えた。指導員三十三名の半数は市外からで、手弁当でやっている。参加者をこれ以上減らしたくない。

●夕張相撲連盟 冬期間の稽古場確保：火・木・土の週三回稽古しているが、冬は文化スポーツセンターの室内で。使用料の負担、大会の経費が大変。

●夕張若菜ファイターズ 野球少年団推進事業：遠征試合で夕張の子どもたちの元気を伝えてゆきたいが、交通費の負担が重い(40試合)。チームで野球場の雪払いなどボランティア活動も続けたい。

●がんばる市民文化祭実行委員会 がんばる市民文化祭事業：昨年は市民会館、美術館の使用ができなかったが、研修センターを会場に多数の出品でにぎわった。今年にはポスターとチラシを作り市民周知を広げたい。

●夕張柔道連盟 夕張柔道指導者育成と柔道少年団交流事業：昭和二十五年結成、五十八年目になった。本年の夏まつり協賛事業には百名程が集まった。「礼に始まり礼に終わる」を継承していく。

●夕張ミニバスケットボール少年団 夕張ミニバスケットボール交流事業：規定の設備(ネットの高さ)が文化スポーツセンターのみで、使用料削減のために練習の半分を他体育館でしている。文スポで練習をさせてやりたい。

●オールシーズンゆうばり 前進座公演「くずしい屑屋でござい」：旧親子劇場のメンバー有志で結成。子ども向けの舞台を夢みて資金づくりをしてきた。高校生以下は無料で観せてあげたい。

●「継続は力」と耳にし口にしますがチョッと待った！ 今回のフレスターの多くが再建団体になる前から活動を地道に継続している団体です。皆さんいかに財源の無い中、自己負担が増えています。「継続は努力ですね」

●黄色いハンカチ基金があることで存続できる。基金に頼らざるを得ない現状です。未来のある子ども達のことを考えてほしい。心に残る訴えでした。ハンカチ基金に募金した人は「力になりたい」助けたい。「心だと思われまます。募金する人、利用する人、お互いの気持が伝わる審査結果を切に望みたいと思いました。活動の要となる生きた財源にするため、知恵と愛のある使い方を期待します。

●傍聴席から

各地の敬老会で出会った 夕張の礎を築いた人の笑顔

鹿の谷町内会 8月31日(日)  
対象者127名  
▲敬老会を兼ね町内会野遊レクリエーションゲーム、抽選会と盛り沢山  
「バンザイ! 1等賞」楽しいネ



清水沢町内会 9月11日(木)  
対象者142名  
▲敬老会 婦人会手作りの料理に舌づつま  
日本舞踊、カラオケ、ダンスとはつらつ  
「アラーお久しぶり」「元気？」会話がはずむ



末広2丁目(翔団地)町内会 9月14日(日)  
対象者116名  
▲敬老会 49名が参加  
なごやかにカラオケ、ダンスを楽しんでいました。

末広町内会 9月14日(日)  
対象者56名  
▲敬老会を兼ね町内会野遊レクリエーション  
ビンゴゲーム(一位は米)  
「おいしいね」焼そば、ジンギスカン、イカ、ホッケ



敬老会 心にしみる会話  
子どもから電話がきたの。「母さんこっちへおいでよ。生きてるうちに市の借金返せないんだよ」  
「ありがとう、父さんと支え合ってこっちにいるから。よそに行ってもこみだにお付き合いできないもの。そしたらネ、お小遣いいつもより多く送ってきたの。もったいなくて使えないでいるヨ」いいお子さんですね。

敬老会を廃止した地域、対象者に記念品を配布するなど地域それぞれの方法があるようです。確認し合っている笑顔に、町内会それぞれのやり方があっていいなと、ほっとな気持ちになりました。町内会のみなさま、ありがとうございました。